

日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2004年6月10日採択

申請者氏名	松田有一 (会員番号 4145)
連絡先住所	〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台 解析研究棟
所属機関	国立天文台 / 東北大学
職あるいは学年 (年齢)	D3
電子メール	matsuda@awa.tohoku.ac.jp
渡航目的	研究集会での口頭発表
講演・観測・研究題目	Lyman alpha blobs in a Large-Scale Structure at $z=3.1$
渡航先 (期間)	ギリシア (2004年8月5日～8月12日)

ギリシアのクレタ島で行われた研究集会 "The Environments of Galaxies: from Kiloparsecs to Megaparsecs" に参加し、口頭発表をしてきました。私にとっては初めての海外研究会で、しかも口頭発表なのでとても緊張しました。以下、日本での準備段階からギリシアでの発表までを順を追って報告します。

[三鷹にて]

出発の三日前、指導教官の山田亨先生、研究員の川口俊宏さん、鍛冶澤賢さんに、はじめて発表の練習を聞いてもらいました。英語の原稿は作っていたものの、すぐにつまり「えーっと、えーっと」と連発してしまい、結果は散々でした。ここでは(1)何が面白いのかを強調する、(2)「えーっと」は言わない、(3)話の流れがわるように物語風にする、というアドバイスをもらいました。その二日後(出発の前日)にもう一度練習を聞いてもらいました。確実に改善はされていましたが、あまりのひどさに山田先生からは「とりあえず元気に挨拶してこい!!」と行って送り出してもらいました。

[ギリシアにて]

発表が第一日目に割り当てられていたこともあり、少し早め(発表の三日前)に現地入りしました。空港での待ち時間も合わせると三鷹を出てから研究集会の行われる会場の宿舎につくまで不眠で33時間の長旅でした。しかし、ヨーロッパははじめてということもあり、いざ着いてしまうとなかなか興奮して眠れません。そこで発表の練習をすることにしました。部屋で持ってきたノートパソコンでスライドを編集しながら練習しようかと思ったら、何と電源のコンセントの穴が丸で三つもあります。これでは持ってきたアダプターは使えません。2時間もすると充電電池が切れてしまいました。このまま部屋で練習を続けても良かったのですが、せっかくクレタ島に来たということもあるので、海で練習することにしました。海岸までは5kmくらいでしたが、バスの乗り方もわからなかったため、とりあえず近くのスーパーで買った1リットル入りの紙パックの野菜ジュースを飲みながら歩いていくことにしました。夏のクレタ島の天気は東京とほとんど変わらず、高温多湿で汗だくになりながら歩いていました。途中迷ったりもしましたが、無事海岸にたどりつき、4時間ほど平泳ぎをしながら、何度も大声で繰り返し練習しました。足下にはたくさんの聴衆(小魚)が泳いでいました。

次の日(発表の二日前)の朝食時には同年代の人が話しかけてきてくれました。彼はイギリスから来たマイルズさんといって私と同じ大学院生でした。夕食はマイルズさんや他の大学院生やポスドクの人と一緒に近くの食堂に行きました。話についていけないこともありましたが、いちおう仲間に入っているようでうれしく思っていました。山田先生からは「自分が大学院生の時の研究集会では結構、大学院生やポスドクの人とは仲よくなれたものだ」と聞いていたのでこういうことかなと思いつつ一緒に食事をしていました。

その次の日(発表の前日)には三鷹から国立天文台上級研究員の児玉忠恭さんが到着しました。夜の懇親会の後には児玉さんに練習に付き合ってもらいました(この時に児玉さんからヨーロッパ用のアダプタを貸してもらいなんとスライドを編集することができました)。何度も練習したにも関わらず、やはりつまりながら「えーっと」を連発していました。ここでも話の流れを良くするようにとアドバイスをもらいました。また途中で頭が真っ白になっても良いように話すべきことはすべてイントロのスライドに書き込んでおくようにしました。

発表当日になりました。緊張で物がのどを通らなくなってきました。持ち時間は発表20分に加えて質問時間が10分、合計30分あります。この日は午前中の他の人の発表は聞きにいったものの、朝食、昼食時には部屋で練習を繰り返しました。いよいよ発表です。聴衆のなかには数日前に知り合った大学院生やポスドクの人たちの顔が見えます。少なくともこの人たちには分かってもらえるように話そうと思っていました。まずは元気良く挨拶です。深く息を吸って、できるだけ笑顔で大声で「グッドアフタヌーン!!!」。苦笑している人がちらほらと見えます。どうにかイントロを乗り切り、本題に入りました。ここでまた話の流れを見えやすくするために(イントロでもう発見したと言っているのに)聴衆に問いかけました。「果たして私達はそれを発見できたのでしょうか?」少し見回し間をおいてから「答えはなんと発見したのです!」今度はほとんどの人が苦笑しています。結局「えーっと」も何度も出てしまいましたが、発表はゆっくりとですがどうにか最後まで辿り着きました。午後の眠い時間帯にも関わらず、居眠りをして聞いている人はいませんでした。質問の時間になっても答えられなようなことを聞いてくる人はいなかったため、無事終えることができました。

発表の後はずすぐにお茶の時間でした。ここで思いがけないことが起こりました。いろいろな人達が「発表が良かった」「わかりやすかった」「すごい結果だ」「これからどう展開するのか」と声をかけてきてくれたのです。児玉さんも「良かったよ」と言ってくれました。その後は初めての人に自己紹介しても皆「発表聞いたよ、よかったよ」と言ってくれ、少しだけですが話もできるようになりました。

[最後に]

研究集会では自分の発表だけでなく、これから研究を発展させていく上で重要なヒントもいくつか持って帰ることができました。早川基金のおかげで初めての海外研究集会に参加し、楽しむことができました。どうもありがとうございました。